

禁じ手を乗り越えて



将棋の禁じ手とされているのが二歩。対戦相手によつては許してくれることもある

あるそうだが、そこは厳しい勝負の世界。渡部悟は最初にこのミスをしてしまった時、「もう君の負けね」と対局を終わらせられたことがあったという。「もう泣きそうになりましたもん。今からやのに……っていう時。5手先のことを考えてたんですけど、その5手先のことを目の前でやってしまった感じで」と悔しい思いをしたそう。レースにもFや妨害など、失格はつきもの。「完全に集中してなかったです」と話すが、そんな悔しさの積み重ねが自身のレベルアップにつながっているかも？

田頭実のすごさ



山口広樹は師匠・田頭実の尊敬する部分に「自分の信念を持つているところ」と語る。山口はF2を2度経験し「Fを切ると落ち込んだりビビッてしまつて行けなくなつてしまつた」というが、「師匠は違う。『これが俺のスタイルだから』ってひるまないんです

ヒゲ面＝速攻派!?



クラシックやオールスターの勝利者インタビュで佐藤隆太郎の顔を見る人も多かったと思うが、ヒゲに注目した人も多し。佐藤いわく、「プライベートでヨーロッパに行った時、最初にスペインに行つたんですけど、街行く人の8割ぐらいがヒゲを生やしてたん

そろそろ出番?



最近全国各地のレース場やBTSで選手(特に女子)のトークショーが催されていくが、野田なづきは引つ張りだこで大忙し。「先週は〇〇で今週は▲▲へ行きました。いろいろな場所に呼んでもらえて本当にありがたいです」と感謝する。ただ、一つだけお誘いが来ないことが……。『あの、私、まだマクルールの表紙のオフア

変な気まずさ



小野生奈の優勝で幕を閉じた芦屋オールレディーズマクルール杯。僭越ながら表彰式のプレゼンターを務めさせてもらったため、登壇。小野と久々に対した。以前はピットでよく取材をさせてもらった間柄だが、ステージ上での対面に何となく気恥ずかしさもあつたが、おめでとうと伝え、トロフィーを手渡した。すると小野の第一声は「ありがとう」ではなく「偉くなったね」だった。続けて「サインください」だって。選手と取材者、会場場所がかわれば、お互い変に意識する!?

呼び声にご満悦



4月のPGIMスターズCで優勝を飾った森高一真が、西山貴浩率いるボンコツ会と一緒に平和島トークショーに参戦。ただ、森高は頑なに「俺はボンコツ会ちゃうか

ドッキリのおかげ!?

芦屋のGIIIオールレディーズとウエスタンヤングの盛り上げ口ケに出演した瓜生正義。普段はこの手の口ケには「全く参加し



ない。ていうかオフアも来ない」とのことだが、快く撮影に参加してく

2分間に全集中



かつて新体操をしていた山下夏鈴にボートの共通点を聞いた。「ボートはピットアウトから計算すると、競技時間が新体操と同じくらいなんです。それに新体操の採点は、ミスを取り返すことが難しい。それはボートレースにも通じていて、ピットアウトからミスしたら不利になるし、スター